

後藤敏文新会長 就任挨拶

この度、日本監査役協会会長を務めることとなりました後藤敏文です。1期2年間、当協会を率いてこられた岡田譲治会長の後を受けることとなりました。監査の重要性が高まり、情報開示の充実なども行われて監査役等の活動に注目が集まる中、当協会の長として、微力ではございますが、全力を尽くしたいと考えております。

私は、三菱重工業株式会社に入社後、管理部門で人事、総務・法務を中心に歩み、2017年6月に取締役常勤監査等委員に就任いたしました。その年の秋に、当協会の常任理事となりまして、併せて、2年間、監査等委員会実務研究会の幹事をしておりました。この度、会長という大役をとのお話があり、私が適任であるか思い悩むところもありましたが、監査役等の監査品質の向上と当協会の事業の充実に向けて、全力を傾ける決意をいたしました。

前任の岡田会長の率いてこられた2年間は、監査、とりわけ会計監査の信頼性確保という観点から、監査に関する情報開示の充実が大きなテーマであったかと存じます。会計監査ではKAMの義務付け、監査役等を含めた監査全体では有価証券報告書への監査の状況の記載義務付けなどが行われた中、協会としての意見発信と実務への展開に着実に取り組んでこられました。また研修会も、コンスタントに受講者が年間延べ4万5000人を超えており、安価で充実した内容を誇るものとなっております。

また、監査役等の在り方が問われるような不祥事案が起きた際には、会長声明を发出され、積極的な御発言もされました。この2年間、監査役等や当協会の話題がマスコミに取り上げられることが増えてきたと感じられます。過去数代の会長が継続的に取り組まれてきた課題と伺っておりますが、岡田会長の御貢献は大きかったと感じている次第です。

この2年間、当協会を率いて、協会事業の充実を実現していただいた岡田前会長には心より感謝申し上げます。

新会長として私は、岡田前会長の御業績を引き継いで、さらに先ほど総会で報告された第47期の事業計画に沿って当協会の運営にあたる所存です。

課題は、「協会事業の一層の充実」であると考えております。今期の重点施策として、①監査役制度等に関する研究及び提言、②研修活動の強化、③情報発信活動の強化を挙げておりますが、これを着実に実施していくことが重要だと考えております。

例えば、KAM や有価証券報告書の監査役監査の状況等、監査に関する情報開示の充実は、実践段階に移ります。今後は実例等の収集と情報提供をしていくことが重要と考えています。また先月、更なる会社法の改正法案が国会に提出されました。その審議の状況や政省令の制定を注視し、監査役等の皆様に適切な情報提供を行っていくことはもちろんのこと、政省令に関するパブリックコメントなども含め適切に対応し、監査役等の実務に役立つ活動を進めていく必要があります。また、近時話題となっておりますグループ・ガバナンス、三様監査の連携、さらには監査役等の独立性などの調査・研究や発信を進め、将来を見据えた、監査活動の充実への支援を図っていきたいと考えています。

研修会に限らず、講演会、全国会議、実務部会や情報交換会等、引き続き法人会員7,000社、登録監査役等8,800人超の会員をはじめとする監査役等の皆様、さらには、監査役等のスタッフやお会社の非業務執行役員へ向けて、時宜に即した事業展開をしていく必要があると考えています。

当協会の事業の充実に向け、理事並びに監事の方々と共に、誠心誠意取り組んでまいりる所存ですので、皆様の積極的な御協力と御支援をよろしくお願い申し上げます。

以上